

主体となり中南和広域観光協  
議会を運営している。昨年度  
は緊急雇用の補助金を活用し、  
中南和全体の観光パンフレッ  
ト作成等や、データベースの  
構築などを行った。これらの  
ツールを活用し、中南和地域  
全体での観光宣伝に取り組み  
たい。また、奈良地域から飛  
鳥地域への誘導が肝要と考え  
ており、今後一層地域と密接  
な関係を築いていく取り組み  
が重要と考える。

**問** 大阪観光局発表のデータ  
では、昨年大阪府を訪れた外  
国人観光客は、前年比で29.  
1%増の262万人で、調査  
開始以降最多で、2014年  
には300万人と予測してい  
る。昨年外国人観光客が大阪  
で使った金の推計は、年間1  
851億円、1日当たり5億  
712万円、1人当たり7万  
600円である。外国人観光  
客へのインバウンド戦略は必  
要不可欠だと思うが、現段階  
における本市の外国人観光客  
誘致とインバウンドについて  
の考えを聞きたい。

**答** 本年度、観光ガイドを8  
年ぶり全面的に改訂する予定  
で、案内説明の要素よりも、  
市外、県外での観光宣伝に目

的を絞り込んだものにする予  
定である。観光ガイドを一新  
した上で、英語、中国語、ハ  
ングルに翻訳し、インバウン  
ド促進に活用したい。さらに  
観光協会のホームページを面  
白い内容にし、食や宿泊に関  
するページを充実させたい。  
外国人観光客の情報源は、イ  
ンターネットやホームページ  
であり、特に同国人の体験紀  
行等を参考にすると言われて  
おり情報発信は非常に有効な  
手段と考えている。

**問** 橿原・高取も含め明日香  
村を中心に、農家民泊型の修  
学旅行誘致を商工会ベースで  
取り組まれている。修学旅行  
の1/5は海外の学校からで、  
昨年度だけでも500人位の  
学生が来ている。最近市内の  
小学校で、アメリカ人の学生  
と日本の学生が交流したとの  
新聞報道もあったが、教育旅  
行における外国人との触れ合  
いによってもたらせる効果に  
ついて教育長の考えは。

**答** 教育制度は徐々に変わっ  
ている。小学校5・6年生に  
英語の時間を週1時間設けて  
いる。この枠が広がる計画で  
3年生位から英語が導入され  
る見通しである。国際社会を

見据え、小さいときから外国  
人との交流の機会を設けるこ  
とは意義があり、授業だけで  
は満たせない刺激を与えるも  
のである。

**問** 当初は、教育目的の修学  
旅行であるが、将来の観光に  
繋げるため、地域一帯として  
盛り上げ支援すべきでは。

**答** 飛鳥ニューツーリズム協  
議会が国内外の教育観光の誘  
致を行っている。また、市と  
して、年間宿泊数の増加を目  
指す取り組みの支援を行って  
いる。増加が予想される教育  
旅行受け入れのため、周辺市  
町村や関係団体との連携強化  
を図り事業発展に努めたい。

**問** 経済効果は大事で、本来、  
訪問された地域で消費してい  
ただくべきだが取り損ねがあ  
ると分析し、具体的に防止策  
に取り組んでいる市がある。  
漏れを最小限に防ぎながらマ  
ネーの域内循環を高める観光  
政策を進めるための産業連関  
表分析について、市の考えは。

**答** 橿原飛鳥地域では、観光  
客の来訪が消費につながって  
いないという課題がある。地  
域の構造的な問題もあり、一  
朝一夕に解決するのは難しい。  
年間を通じて人が集まるよう

な仕組みを構築していく必要  
があり、他の自治体と協力し  
てアイデアを出したい。

**問** 岐阜県高山市は、いち早  
く外国人観光客誘致に取り組  
み、平成7年度2万3千人で  
あった外国人観光客を、26年  
度には年間30万人を目標とし  
ている。戦略としては、外国  
人観光客が1人でも迷わない  
ように言葉のバリアフリーを  
徹底し、パンフレットや案内  
サイトは11カ国語で対応して  
いる。また、市役所内部に、  
高山市海外戦略室を設置し、  
観光庁に職員を派遣するなど  
交流を熱心に行い人材育成に  
力を入れている。インバウン  
ド戦略は非常に大事と思うが  
市長の考えは。

**答** 本市のポテンシャルは高  
く交通の便も良い、関空から  
橿原へ入りそして広がってい  
くというハブ化は、観光だけ  
でなく、企業、人材、投資も  
含め、利用できると考える。  
内閣府の地域活性化モデル事  
業の中の1つに県立医科大学  
と連携する健康ニューツーリ  
ズムがあり、海外から来られ  
た方の病氣治療もそのメニュ  
ーにある。これはインバウン  
ドの力の一つになるのではと

思う。本市の利便性をこれか  
らも充実させたい。

**問** 平成25年9月議会で、生  
物多様性のまちづくりを質問  
し、「戦略の柱として、観光  
に直結する食と農のブランデ  
イング、さらに教育効果もあ  
る」と指摘し、「広域で考え  
ていくべきかどうかも含め検  
討したい」との答弁をもらっ  
たが、その後の状況は。

**答** 生物多様性は行政界で区  
切って考えるのではなく、  
山や河川の流域を考慮し自然  
条件が同様の地域で考えなけ  
ればならない。明日香村、高  
取町、橿原市の「あたか」で  
構成される飛鳥広域のエリア  
で、観光、教育、産業振興の  
効果を踏まえ生物多様性地域  
戦略を検討していくことが重  
要と考える。本市が中心とな  
り取り組みを進めたい。

**問** 生物多様性の戦略を作る  
に当たり、観光、産業振興な  
ど多岐にわたる中、行政の縦  
割りを、どのように越えるの  
かが課題となると思うが。

**答** 関係部局間の連携はもと  
より、主となる組織を新しく  
立ち上げることも視野に入れ  
なければならぬ。

**問** 食と農の関係には、女性